山川の知られざる秘宝 ～山川石～

話し手 山川がんばろう館 館長
新原（しんばら） 達也（たつや）さん（昭和33年6月19日生）
聞き手 鹿児島県立 指宿高等学校 普通科 2年

山川石の特徴

山川石は軽くて加工しやすく、風化に強い溶結凝灰岩で、色は淡い黄色という珍しい色をしています。昔は、高級石材として珍重され、島津家の歴代当主夫妻や、位の高い武士の墓石や家の塀に使われたりしていました。他にも、鉄がない時代には水道管として使われたりして、鹿児島を始め、奄美大島などの離島でも山川石は重宝されていたようです。

ただ、山川石は、硬さに均一性がなく機械で加工すると壊れやすいので、大量生産が厳しいことや、水分が入ると割れやすくなったりする弱点があったんですね。だから昭和55年頃には、外国産の硬くて均一性のある安い石材に押され、段々と廃れていってしまいました。

今、私が館長をしている「山川がんばろう館」でも、10年くらい前は裏山で山川石を取って蛙の像とか作っていたのですが、やっぱり山川石はどうしても手作業で作らないといけないためコストが高く、商売としては難しいですね。

山川石に携わるきっかけになった父の存在

私が山川石に携わったのは親父がいたからです。私の親父は元々山川で育ち、大人になってからは、鉄道会社やお茶屋での仕事を経て、70歳になったのをきっかけに、地元である山川に埋もれていた「山川石」や、観葉植物の「山川豊歳」に付加価値をつけて世に広めたいと、「がんばろう館」の前身となる「ふるさと産品株式会社」という会社を設立しました。そこでは、福岡から石職人に来てもらって作った灯籠や石敢當を寄付したり、蛙の像を作って、そこに献金箱をつけて集まったお金を年に1度、社会福祉協議会に寄付したりしていました。

私もそういう仕事を手伝っていましたよ。制作には非常にコストがかかり、商売としては正直、難しい面もありましたね。でも親父は、歴史的にも文化的にも価値のある山川の資源を活かしたいという強い思いがあったので、西郷隆盛に縁の深い鰻池温泉地に、山川石の西郷像を寄付させていただきました。

人々に親しまれる西郷像

鰻池の西郷像は、有り難いことに完成後に新聞に掲載されて、全国から観光客が来たりするなど、多くの人に知られるようになりました。

私の親父は、鹿児島県の偉人である西郷隆盛がこの地に足を踏み入れ、温泉を訪れた歴史があることを後世に伝えたいと制作に至りました。制作期間は約一ヶ月でした。鰻池付近に置かれている西郷像の目には、最初何もなかったのですが、いつの間にか誰かがビー玉を入れて現在の西郷像となりました。

父のいしと現在の山川石

山川には、父が残した山川石がいくつかあります。道端に置かせてもらった石敢當には魔除けの意味が込められています。

石敢當は山川以外にも沖縄のT字路にも置かせていただきました。指宿警察署の前や、唐船峡、山川支所などの場所には蛙の像を置かせてもらいました。なんで蛙かというと「無事にかえる」や「むかえる」などの縁起の良い意味があるんですね。

私も今、山川石を鉢の土の代わりに使っています。山川石は水を適度に保ってくれる性質があります。観葉植物の「山川豊歳」に使っています。

山川にはこんないいものがあるので、もっと多くの人に知ってもらいたいですね。

聞き書きコラム

江戸時代の技術を残す山川石

山川石がこの地に産する理由について、生成の年代やはっきりとした原因は明らかになっていない。ただ、その成分が、火山の噴火によって噴出物が堆積し、冷やされる過程で形成された溶結凝灰岩であることは、この石が鹿児島の自然の特色である、火山の恵みということを示している。加工しやすい特性を持つこの石を、鹿児島の先人たちは高い技術によって活用した。指宿市役所山川庁舎に今も残る、江戸時代に作られた山川石の石塀に、その技術の一端を見ることができる。隙間なくきれいに積まれた石塀は、当時の職人の技術を今に伝えるもので、指宿市指定有形文化財に登録されている。